

42 豊かな緑を未来に ～六甲山の治山事業～

兵庫県（六甲山地）



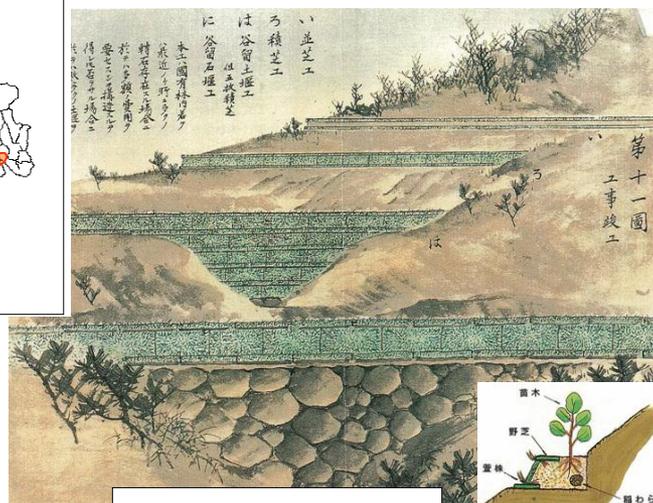
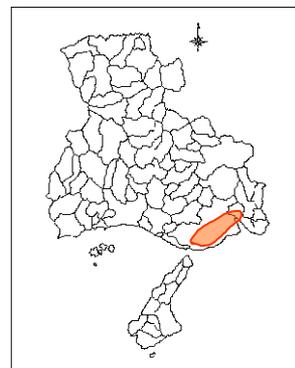
明治中期の六甲山（神戸市立博物館所蔵）



施工1年目の再度山（明治37年）



現在の六甲山



昔の治山工事竣工図

積苗工模式図

○所在場所

兵庫県神戸市、芦屋市、西宮市、宝塚市

○施設・工法の概要

治山ダム約1,600基、山腹工ほか

○解説

明治期の六甲山系は、過度の森林利用等によりはげ山となり、日本植物学の父と言われる植物学者・牧野富太郎博士が神戸を船で訪れた際、六甲山を見て雪が積もっているのではないかと感想を残すほど荒廃していました。

六甲山系は、昔から大雨のたびに土砂崩れが発生し、阪神淡路大震災でも多数の山地被害が発生しましたが、それを教訓に、復旧および防災対策が余念なく進められ、新たな地震対策工法（ロープネットロックボルト併用工法）の開発など、他地域の手本として、治山技術の牽引役を担っています。